

諏訪地方の経済概況速報

平成24年12月

(平成24年 11月末調査)

平成24年12月20日

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫
経営相談室

<http://www.suwashinkin.co.jp>

TEL 0266(23)4567

FAX 0266(23)8044

		実 数	前年同期比	
有効求人倍率【 10月】	諏訪公共職業安定所管内	0.80 倍	△0.01 ポイント	
手形交換高【 11月】 (諏訪手形交換所扱)	枚 数	6,723 枚	△677 枚	
	金 額	7,958 百万円	△1,058 百万円	
	うち不渡り	枚 数	2 枚	△3 枚
	発生状況	金 額	600 千円	△632 千円
電力使用量【 11月】 (中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	49,744 MWh	8.9 %	
	高压電力計	88,377 MWh	△5.5 %	
	合 計	138,121 MWh	△0.8 %	
車庫証明取扱件数【 11月】(諏訪地方合計)		853 件	△3.8 %	
新設住宅着工戸数【H24.4月～10月】(諏訪管内)		617 戸	△11.2 %	

□本文は、当金庫の取引先約 130 社へのヒアリング調査による取りまとめ。

地域の概況

諏訪地方では、世界経済の減速や日中関係の悪化、エコカー補助金終了などを背景に、総体的に厳しい状況が続いている。11 月は地域内で大型の希望退職者募集などがあり、不況感が表面化した。車庫証明件数も 1 年ぶりに前年同月を割り込んだ。12 月 2 日に発生した中央道笹子トンネルの天井崩落事故は、直後に大きな混乱はなかったものの、年末に向けた物流の遅れやスキー客を中心とした観光面への影響を懸念する声が多い。好転材料が乏しい中で、7 月に始まった再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度を受け、茅野市と諏訪市でメガソーラーや小水力発電の計画が浮上している。先行き不透明な中で開かれた第 11 回諏訪圏工業メッセには多くの来場者があった。

●製造

自動車部品関連の下請企業の足元の受注は、前月の水準を維持したり、年明けからの受注増が予定されている企業もあるが、総体的に減少傾向となっている。依然、コスト競争は激しく、収益性は厳しい。電子部品関連で、急激な低迷による経営環境の悪化で希望退職の募集があり、プリント基板関連の不振も目立った。工作機械などの産業設備は、大型の工作機械、専用機の受注が東南アジアや中国向けで低調だが、動きが出てきたとみる企業もある。金属製品も親企業からの減産予告があったり、受注にばらつきがあり不安定な状態が続いている。親企業の業況が悪いため、他の受注先との取引を模索する動きもある。

●商業

諏訪地方の 11 月の天候は、10 月上旬までの残暑から一転して低温傾向となり、冬物衣料や暖房関連用品、鍋物などの売れ行きが伸びた。景気低迷で冬のボーナス減少が予想される中で、大型

店では商品の値下げが行われ、コンビニでは県産食材や地元色を出した弁当などで売り上げ増を図る動きが見られた。岡谷市では10月に撤退した大型店の後に新店舗が開業した。

自動車販売は、諏訪地方の11月の車庫証明件数(軽自動車除く)が853台と、前月比で116台減少(△11.97%)した。前年同月比でも34台の減少(△3.83%)となり、昨年11月以来、1年ぶりに前年同月を割り込んだ。軽自動車は低燃費の新車が健闘し、売上は堅調だった。

●観光業

11月は諏訪湖マラソン、諏訪圏工業メッセ、全国木遣りサミットなどのイベントがあった。前年の好調の反動が見られる上諏訪温泉の宿泊客数は、前年同月比70%~90%台のところが多い。12月の宴会予約は平日が低調となっている。蓼科・白樺湖などの高原の観光地は、冬季シーズンへの端境期で、前月比減少し前年同月比で同水準の施設が多い。富士見パノラマスキー場の春から秋にかけての利用者数は前年比大幅増加だった。中央道笹子トンネル事故による通行止めでスキー客の減少を懸念する声が多く、一部キャンセルもあった。選挙時は、自治体や業界団体などがホテル・旅館での飲食を控える傾向になることから、集客時期に行われた衆院選の影響もみられた。諏訪大社の11月の参拝者数は約58千人で、前年同月比約14千人減少(△19.7%)した。

●建設業

市町村の11月の発注工事は、茅野市の豪雨災害復旧工事など土木工事・下水道工事65件、建築工事7件、その他工事11件の合計83件691百万円で、前年同月比で件数は8件減少したが、契約金額は224百万円の増加となった。県関係の11月の公共工事(地元業者受注分)は28件392百万円で、平成24年4月~11月の累計契約は124件2,838百万円となり、前年同期累計比で件数は2件減少、契約金額は178百万円の増加となった。

民間工事は、諏訪地方の10月の新設住宅着工戸数が95戸と、前年同月比で49戸の増加(106.5%)となった。一般住宅の新築や太陽光発電装置の設置を伴うリフォームなどに動きが出ている。平成24年4月~10月までの累計着工戸数は617戸で、前年同期に比べ78戸の減少(△11.2%)となっている。長野県内の10月の新設住宅着工戸数は813戸で、前年同月比13.2%の増加となり、2ヶ月連続で増加した。

●雇用

諏訪地域の10月の有効求人倍率は、前年同月、前月ともに0.01ポイント減少して0.80倍となった。全国と長野県も同率となっている。

諏訪地域の10月の新規求人(全数)は1,428人で前年同月比138人の増加(10.7%)、新規求職者数は1,138人で前年同月比34人増加(3.1%)した。業種別の前年同月比の新規求人数は、その他の産業で92.2%、建設業で54.2%増加したが、飲食店・宿泊業で39.4%、製造業で24.2%減少した。10月の1件10人以上の人員整理は3件69人。事業主都合による雇用保険資格喪失者は85人で前年同月比14人、前月より20人それぞれ増加した。

業種別動向

1. 電気機械

プリント基板	業界は全体的に低調に推移している。
プリンター	在庫調整で減産要請があり、親会社の動向で受注が減少している。中国向けが大幅減少で、年内は回復期待できないという見方が多い。
コンタクター・リレー	工場用非常電源装置の受注は旺盛。材料の銀や銅の単価が高止まりし、収益を圧迫している。

2. 輸送用機械

自動車	減少傾向だが、受注先や加工内容によって増減のばらつきがあり、年明けから受注増が予定されている所もある。
ピストンリング・シリンダーライナー	高級車用の韓国、中国向けの受注が減少している。欧州向けも減産で3月ごろまで続く見込み。
船外機	親企業の生産台数に下方修正があり、欧州向けで減少傾向となっている。

3. 一般機械

工作機械・専用機	中国の反日運動の影響は少なくなっている。大型の工作機械、専用機の受注は中国や東南アジア向けがやや低調となっているが、戻りつつある。
搬送用機械	業界には需要あり、食品・医療などが好調で競合が激しい。
金型	総体的に低水準で推移している。
ダイカスト	企業により区々となっている。

4. カメラ・レンズ

デジタルカメラ	全国のデジタルスチルカメラの10月の生産台数は962万台で前月29.5%増加、前年同月比21.8%の減少となった。10月の出荷台数は国内出荷67万台、海外出荷866万台の合計933万台。出荷台数全体では前月23.1%増加、前年同月比は27.6%減少となっている。 生産計画が当初計画より大幅に下回った大手があり、地元企業への受注は減少傾向。見積もり金額も低くなっている。
レンズ	一眼レフが一巡し、コンパクトカメラがスマートフォンの影響を受けるなどで、レンズ加工も減少傾向となっている。一部の分野では受注が旺盛で、繁忙な企業もある。

5. 繊維

ニット

冬物量産品は点数、単価とも低下傾向。原材料も依然高止まりの状態。

6. 食品

寒天

大口の取引先の注文が減少傾向で、粉寒天に押されているが、道の駅などの観光施設での売上は堅調に推移している。

味噌

年末年始に向けた自家用の需要がある。大豆や米などの原材料価格が高まり、収益を圧迫する傾向が続いている。

7. 製材

諏訪地方の10月の木造住宅着工戸数は81戸で、前年同月に比べ42戸の増加となり、若干動きが出ている。

8. 建設

公共工事

11月に地元業者が受注した県関係の公共工事は、諏訪建設事務所21件、林道治山工事関係4件、農地整備課3件の合計28件、契約金額392百万円となった。また、平成24年4月～11月の累計契約は124件2,838百万円と前年同期累計比で件数は2件減少、契約金額は178百万円の増加となった。

市町村の11月の発注工事は、建築工事7件135百万円、土木工事及び下水道工事65件509百万円、その他工事11件46百万円の合計83件691百万円で、前年同月比で件数は8件減少したが、契約金額は224百万円増加した。茅野市では豪雨災害復旧工事や長峰中改築事業などが進められている。

民間工事

諏訪地方の10月の新設住宅着工戸数は95戸で、前年同月比では49戸の増加(106.5%)となった。前年同月比の利用関係別では、「持家」は30戸増加の74戸、「貸家」は17戸増加の17戸、「分譲」は2戸増加の4戸となった。平成24年4月～10月の累計は617戸で、前年同期累計に比べ78戸の減少(△11.2%)となった。利用関係別では「持家」が2戸増加(0.4%)したが、「分譲」は53戸減少(△60.9%)、「貸家」は28戸減少(△27.5%)している。一般住宅の新築、増改築工事に動きが出ている。小規模リフォームの需要もある。

また、長野県内の10月の新設住宅着工戸数は813戸で、前年同月比13.2%の増加となっている。なお、前年同月比の利用関係別では、「貸家」は186戸で51.2%の増加、「分譲」は65戸で22.6%の増加、「持家」が562戸で4.5%増加となった。

9. 商業

衣料	低温傾向となり、保温性のある衣料品の売れ行きが伸びた。就職活動に向けたスーツも動き始めた。
食料品	歳暮商品としてのリンゴや寒波による鍋物、練り物、スープ、野菜が好調で惣菜や弁当も堅調だった。
家電製品	市場では太陽光発電システムへの関心が急速に高まり見込み顧客も多い。中国に続き、インド製品も注目されている。
自動車	全体的に車販売は減少傾向の中で、低燃費で踏み間違い防止機を搭載した新車など軽自動車の売上は堅調。
ホームセンター	気温の低下とともに、石油ストーブやファンヒーター、こたつ、防寒着、防寒小物の売れ行きが伸びた。

10. 観光

上諏訪温泉	昨年に比べて団体客が減少し、宿泊人数が下がっている。施設間では価格競争もある。
蓼科・白樺湖・車山等	スキーやスノーボードの常連客の予約は順調な施設が多い。直前の予約が多く、中央道トンネル事故の影響が懸念されている。
下諏訪温泉	紅葉の遅れなどで 11 月の宿泊数は増加傾向。忘年会の予約状況は週末が好調となっている。
諏訪大社	上社・下社合わせた 11 月の参拝者数は約 58 千人と、前年同月比約 14 千人減少した。

●2013年の見通し(信金中央金庫地域・中小企業研究所経済見通しから)

〈足元の景気は弱含みながら13年には再び回復軌道へ〉

欧州の景気後退が波及する形で中国経済が減速した上、日中関係の悪化も加わって日本の輸出は停滞している。エコカー補助金の終了などで個人消費も減速しており、当面も景気は弱含みの動きが続くとみられる。ただ、世界経済のカギを握る米国の景気は減速局面を脱しつつある。大型減税の失効などに伴う「財政の崖」というリスクが残っているが、雇用情勢や住宅市場はすでに回復の兆しが広がっている。欧州経済も落ち着きを取り戻しつつある。13年には世界経済の持ち直しによる輸出の回復をきっかけに、日本経済も緩やかに上向こう。

〈実質成長率は13年度1.5%と予測〉

13年度については輸出が持ち直す一方、復興需要による下支え効果は弱まる。年度下期にかけて消費税率引き上げ前の駆け込み需要が景気を底上げするため、実質成長率は1.5%とした。